

松本和馬, 1982, ギフチョウ・ウスバシロチョウのSpatio-temporal dynamics, 個体群生態学会会報, 35: 27-29.

神鍋のムラサキケマン分布調査

足立 義弘

神鍋において、1982年4月29日に豊岡高校生物部が、5月6日に当会がムラサキケマンの分布調査をおこなった。

神鍋では、ムラサキケマンがウスバシロチョウの食草と考えられているが、残念ながら今のところその関係は明らかにされていない。しかし神鍋では他にウスバシロチョウの食草となる植物は見られておらず、いざる所に見られるムラサキケマンが食草となっているのはまちがいないと考えられる。

そこで、とりあえず神鍋一帯にどれくらいの量のムラサキケマンが、どのように分布しているのかを知るために調査をおこなった。

調査方法は、神鍋一帯の道路沿いにムラサキケマンの株数を数え、それぞれの道路の節目ごとに、その間の株数と10m単位の平均値(株数/10m)で表わした。また一部全数調査をして所は株数のみで表わした(次頁の図参照)。

調査結果は疎密の差はあるものの神鍋一帯に広く分布していることがうかがえる。今回の調査では全合計8045株を数えたが、畠地、林内外、放置された畠畠などを考えると、この数をかなり上回るものとなろう。

今回の調査がウスバシロチョウの分布などのように結びつかぬ明らかでない。1981のウスバシロチョウの分布調査(IRATSUME6:1-4)とそのまま結びつけるには周囲があろ。ウスバシロチョウが成虫になるまでのムラサキケマンの摂食量や、卵から成虫になるまでの死亡率などの問題を明らかにしてゆく必要がある。今回は調査結果を報告するだけにとどめておきたい。

